

※学-Viva：「Viva」は、「生きる」という動詞から生まれた言葉です。三重の「学び場」が生き生きするイメージで名付けました。

◆特集◆

全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた

『授業アイデア例』の活用を！

「授業アイデア例」は、全国学力・学習状況調査の調査結果を踏まえて、授業の改善・充実を図る際の参考となるよう、授業のアイデアの一例を示すものとして、国立教育政策研究所によって作成されたものです。

本調査で見られた課題については、調査の対象学年だけではなく、学校全体で組織的・継続的な取組によって改善を図り、解決につなげていくことが大切です。

日々の授業や研修会など様々な場面で「授業アイデア例」を活用し、児童生徒の学習状況の改善につなげていきましょう。

授業アイデア例



授業アイデア例（小学校）ではこんなことが紹介されています♪



Q 授業アイデア例は、どのようなときに活用できるのですか？



A ● 日々の授業や教材研究
● 各学校での研修会や研究授業など、課題の解決に向けた様々な場面で活用できます。

Q 授業アイデア例は、小6や中3の担当が参考にするものですか？



A 全ての先生が活用できるものを目指して作成されています。
本調査で見られた課題は、小6・中3だけでなく、学校全体、校種を通じた系統的・継続的な指導によって改善を図っていくことが大切です。

Q 授業アイデア例に示してある TYPE I・II・IIIとは何ですか？



A 調査結果から明らかになった課題の解決に向けた3つの観点です。

児童生徒のつまずきの状況を把握し、その解決を図りたいときは

TYPE I

短時間で知識・技能の定着を図りたいときは

TYPE II

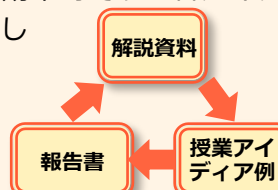
数時間にわたる学習過程の中で、知識・技能の習得と活用を図りたいときは

TYPE III

Q 課題を把握して、授業の改善を図りたいのですが、授業アイデア例の他にも参考になるものがありますか？



A 授業アイデア例は、解説資料・報告書と併せて活用すると効果的です。各アイデアに「参照▶」として該当ページを示しています。ぜひ、解説資料や報告書も見てください。



Q 過去の授業アイデア例や解説資料・報告書も参考にしたいのですが、どこを見ればいいですか？

A 上記の活用方法とあわせて、国立教育政策研究所のウェブサイトで見ることができます。
<http://www.nier.go.jp/kaihatsu/zenkokugakuryoku.html>



国語

「話の内容に対する聞き方を工夫しよう」

TYPE I
A 3

相手の話の目的や意図を捉えながら聞き、自分の考えをまとめることができる

話の内容に対する聞き方を工夫することに課題が見られました。そこで、本アイデアでは、この課題を解決するために、本問を活用し、提案の内容に対する聞き方を工夫することについての指導事例を紹介します。なお、本アイデアは、第5学年以上を対象としています。

タイトルではどのような活動を行うのかを、サブタイトルではどのような力を身につけたいかを示しています。

調査結果から見られた課題についての解説や本アイデアの作成意図、指導のねらい等を記述しています。

課題の見られた問題の概要と結果

該当する設問の概要、全国平均正答率を示しています。

学習指導要領における領域・内容

A 3 聞き方を工夫する

A 3 正答率 53.2% 聞き方の説明として適切なものを選択する

(第5学年及び第6学年) A 工

授業アイデア例

A 3 における誤答傾向

【青木さんの心の中の声】

- A そうじに対する取り組みの問題点などをとらえて、提案しているんだな。
- B 六年生は、「さっと取りかかり」と「すみずみまで」については、あまりできていないような気がするわ。
- C 低学年にも分かりやすいな。これなら、そうじのときに合い言葉として声をかけ合うことになるだろうから、きっと効果があるわ。

聞き方

- 1 提案の内容と自分たちの様子とを関係付けながら聞いている。
- 2 自分が予想したとおりかどうかを確かめながら聞いている。
- 3 どのようなことをもとにした提案なのかを考えながら聞いている。
- 4 提案に対して反対の立場に立ち、疑問をもちながら聞いている。
- 5 目標の達成につながる提案であるかを評価しながら聞いている。

誤答傾向①

B の説明として1と解答していないものが39.5%であることから、提案の内容と自分たちの様子とを重ね合わせて聞くことができていない。

誤答傾向②

A の説明として3と解答していないものが25.0%であることから、提案の理由に着目して聞くことができていない。

話の内容に対する聞き方を工夫することについて指導することが大切です。

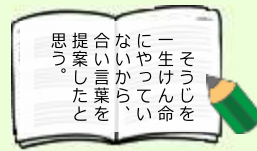
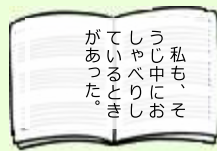
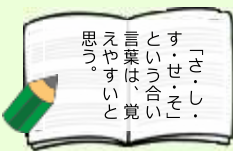
ポイント

本問を活用した指導事例：「美化委員会からの提案について、聞き方を工夫して話を聞こう」

学習活動 1

提案を聞き、大事だと思ったことや考えたことを各自ノートに書く

- 美化委員会からの提案について、既習事項を基に話の中心に気を付けて聞き、大事だと思ったことや考えたことをノートに書く。



本アイデア例において、特に注目・留意してほしい指導上のポイントを記述しています。

学習活動 2

各自ノートに書いた自分の考えを発表し合い、分類・整理する

- 各自ノートに書いた自分の考えを発表し合い、互いの考えを比べ、共通点や相違点、関連して考えたことなどを整理し、「聞き方のポイント」としてまとめる。



提案を聞くときのポイントは、主に次の三つにまとめられます。
ポイント① 提案の理由に着目して聞く
ポイント② 提案の内容と自分(たち)の様子とを重ね合わせて聞く
ポイント③ 提案の効果や妥当性を判断しながら聞く

「聞き方のポイント」について指導する際には、次のような発問が考えられます。

- ポイント① 「どのようなことを基に、どのようなことを提案しているのかを考えながら聞きましょう。」
- ポイント② 「提案を自分の知っていることや経験したことと比べながら聞きましょう。」
- ポイント③ 「提案に対して疑問をもったり、目標を達成することができるかを評価したりしながら聞きましょう。」

ポイント

学習活動 3

「聞き方のポイント」に気を付けてもう一度提案を聞き、自分の聞き方を振り返る

- 自分の聞き方を振り返り、聞き方の工夫についての自分の課題を捉え、日常生活においても意識できるようにする。

本授業アイデア例 活用のポイント!

- 聞くことへの能力は、学習した知識・技能を繰り返し用いたり、実際の生活場面において使いこなす機会を多くもったりすることによって身に付けることができることから、年間指導計画に意図的・計画的に位置付け、確実に指導することが大切です。

授業づくりの参考となるよう、他の学年・各教科等での指導に生かすことなど、参考となる情報や指導上の留意点等を記述しています。

【事例 10】津市立西が丘小学校

学力の向上につながる3つの「チ」

～ チャレンジ チェック チームワーク ～

授業改善に向けて

■ チャレンジ

● 授業スタイルの共通理解と共同実践

説明文教材を不安定な状態（しかけ）にして子どもに提示し、その安定化に向けて考えさせる

↳ 教材文の順序を変える、教材文を置き換える、教材文の一部を隠す 等

● 「論理的思考力」の育成 → 「考える習慣づくり」

◆ めざす「論理的思考力」◆

- ・ ものごとのつながりを捉える力
- ・ 具体&抽象の考え方ができる力
- ・ 根拠を述べる力



◆ 考える習慣づくり ◆

教師の対応力（ゆさぶる、切り返す、価値づける 等）による習慣づくり

考えながら「読む」「聞く」「話す」「書く」

● 西が丘小学校版「説明文の『5つの読みの技術』」

説明文教材の重点指導ポイントを整理し、系統的に指導する

- ① 要点
- ② 問いと答え
- ③ 説明文特有の表現技法
- ④ 三段構成
- ⑤ 要旨や意図

■ チェック

● 仮説検証型の検討会

- ・ 事前検討会：ミニ模擬授業を行い、「しかけ」とその効果（仮説）を全員で検討
- ・ 事後検討会：ワークショップ形式で検証し、全体で交流

● 校内教材検討会

オリジナルワークシートを使って、一つの教材文を全員で研究

■ チームワーク

● 算数科における学級を分割した少人数指導の実施（3年生以上）

- ・ 学年ごとに中心となる指導教員を配置し、担任と共に教材研究、教具を準備
- ・ 指導教員間で情報交換 → 縦・横（各学年間・学年内）の連携を進め、きめ細やかな指導



学校全体での取組

● 学びを支える日常化の充実

- ・ 発達段階に応じたスピーチ
- ・ 系統的なペア&グループ対話
- ・ 言語環境の整備（話型の掲示等）
- ・ 日常的な活動の場を検証

● 発達段階に応じた他者を意識した言語環境づくり

- ・ 「相手にわかるように
順序を考えて話す」
- ・ 「相手が納得するよう
理由を明確にして話す」

設問

「授業中、自分の考えを発表する機会がある」
「自分の考えを他人に説明したり文章に書いたりしている」
等で、良好な結果！

● 学習規律の徹底

- ・ 1年生での指導内容を基本に、系統的に指導
- ・ 発達段階に応じて規律の内容を変容

● 「児童質問紙」の結果分析と活用

- ・ 他県の結果と比較分析し、独自の取組を模索

津市立西が丘小学校長からのコメント

子どもたちの学習意欲は高く、学習態度も良好です。家庭での学習時間も長いという結果も出ており、保護者の皆さんや地域の皆さんの学校への期待も大きいものがあります。

本校では、先行研究に学びながら、子どもたちの実態に応じた授業のあり方を系統性と共同実践を大切にしながら研究しています。

また、学年内だけでなく、学年を越えたグループでもチームワークがよく、「大規模校でもできる」を合言葉に取り組んでいます。

第1回「みえスタディ・チェック」

「平成27年度第1回みえスタディ・チェックにかかる採点研修会」

児童生徒が主体的に学習に取り組む意欲を育むとともに、授業改善や個に応じた指導の充実を図り、各学校における組織的かつ継続的なPDCAサイクルを確立するための取組の1つとして、県内公立小学校の4, 5年生と公立中学校の1, 2年生を対象に10月21日(水)、第1回「みえスタディ・チェック」を実施しました。今後、各学校における自校採点を通して、児童生徒の学習内容の定着状況を把握し、授業改善に役立ててください。

平成28年2月3日(水)には、県内公立小学校5年生と中学校2年生を対象に第2回「みえスタディ・チェック」の実施を予定しています。(実施教科は国語、算数・数学です)



10月26日(月)には、「平成27年度第1回みえスタディ・チェックにかかる採点研修会」を実施しました。小中学校管理職、指導教諭、小中学校教諭、市町等教育委員会担当者等あわせて184名が参加し、みえスタディ・チェックの採点にあたっての方針や留意点等を共有しました。

最初に、みえスタディ・チェックの出題の意図や採点作業について説明を聞き、その後、採点作業に取り組みました。

参加者からは、「文をきちんと読ませることの大切さ、きちんと書かせることの大切さを実感しました。学校全体で共有し、指導に活かしていきたいです。」「子どもの課題、教師の課題を明らかにして、今後の学習に活かしていこうと思います。」「児童生徒一人ひとりの学習状況を早い段階で掴み、これからの指導に活かしていくことはとても大切で、意義深いことだと思いました。」等の声が聞かれました。

先輩

～学力向上
アドバイザー
からの
メッセージ

実践事例校の取組に学ぶ

桑名市立多度中小学校では、昨年度当初より子どもたちの様子や全国学力・学習状況調査結果、学校アンケートの結果分析をもとに、授業の充実を学校体制に広め、学校全体の学力向上を目指し取り組んでおり、年々、その手応えが表れてきています。

授業力の向上

子どもの学習意欲を高め、学習内容を定着させるうえで、「めあて」と「ふりかえり」の有効性に着目し、年度当初より、全校で検討と実施を進めました。教員が積極的に授業公開を行っています。教員同士の研鑽はもちろんのこと、学力向上アドバイザーや指導主事等からの指導・助言を受け授業改善をしていく実践を続けています。

書く力の育成

授業の「ふりかえり」の場で、ノートやワークシートに「書く」活動を日々積み上げることを目指しています。1年目はうまく実施できないこともありましたが、2年目に入り、これらの活動も定着してきて、「めあて」の提示とあわせておこなうことにより、学校全体の落ち着いた学習体制にもつながってきています。

家庭学習の充実

各家庭に「家庭学習の手引き」を配付するとともに、具体的な説明や事例の提示を加えて、協力と定着を呼びかけています。低学年では毎日の宿題をやり遂げさせること、高学年で「自主学習」に広げることを通して、自ら進んで取り組む子どもを育てることに力点を置いて指導しています。

●●● 学力向上アドバイザーより ●●●

アドバイザーの訪問の際、校長も授業参観と事後協議に参加して、子どもの姿や指導の様子をとらえてはともに教員たちと意見を交換し、より具体的に指導のあり方を求めてきました。また、そこで伝えた成果や課題は、さらに教員全体の場で紹介され、活かされているところも素晴らしく思います。

平成27年度 ネットDE研修 新規公開講座のご案内

アクティブ・ラーニング



- カテゴリー ●● 授業方法
 - 講座名 ●● アクティブ・ラーニング
 - 講師 ●●
- 横浜国立大学 教育人間科学部
教授 高木 展郎

Let's
Click!!



●● ねらい ●●

「アクティブ・ラーニング」とは何か。なぜ、今、「アクティブ・ラーニング」が必要なのか。

本講座では、次期学習指導要領改訂で目指す学校教育について考えながら、「アクティブ・ラーニング」を活用した授業づくりについて、研修を深めます。